2015 年

中国語短期語学研修報告書

9 月 13 日～ 9 月 26 日

於 : 北京外国語大学

お茶の水女子大学

中国語圏言語文化コース

はじめに
――中国語短期語学研修を終えて――

中国語圏言語文化コース　伊藤　美重子

昨年度より模索していた北京外国語大学での２週間の中国語研修が今年度実現した。私は後半の一週間の引率を担当し、９月２６日（土）の夜、同じく引率の馮曰珍先生と１７名の学生とともに帰国した。学生はみなそれぞれに北京の生活を楽しんだようであった。私自身も久しぶりの中国で、北京の大気汚染を心配していたが、時々青空が見えていた。北京は秋が一番良い。

今回の研修は本学の中国語圏言語文化コースと北京外大の留学担当者との双方が相談しあいながら企画した研修であり、この研修が実現に至るまでの経過をここに書き留めておくことにする。

中国での短期の語学研修計画については、昨年後期の授業が始まる頃、国際本部会議で面識を得ていたグローバル人材育成推進センターの特任講師である渡辺紀子先生に相談したことが始まりだった。基礎中国語や中国語圏コースの学生から、短期の中国語研修のことを問われることが時々あり、たいていは協定校の短期留学や民間の旅行社でも短期留学を扱っているから問い合わせてみたらという話をすることで終わっていた。学生としては大学で主催する研修のほうが安心であるらしく、大学主催の短期留学を求めている学生の存在が気にかかっていた。協定校の短期留学に関して情報を集めてみると、短期研修といっても短くとも３週間以上のものがほとんどであった。語学研修というからには、確かにある程度の期間が必要なのかもしれない。今回の企画は語学研修というより中国を体験することに重点があった。自分が学んでいる言葉の国を体験するということが、今後の学習への意欲につながり、またその国での研修の機会があることを知れば、意欲的に学習にも取り組むことができると考えた。できれば次年度の学期始めに短期語学研修の機会があることを知らせたいという思いから、来年度での短期語学研修の実現を模索していた。

渡辺先生を通して北京外国語大学の留学受け入れ担当部署と連絡を取っていただいた。先方は大変忙しい部署であるらしく、なかなか進展をみなかったが、今年２月に先方より派遣学生の人数を尋ねるメールが来て、具体的な交渉に入っていった。中国との交渉にはやはり中国の事情を知る方に入ってもらうのがよいので、外国語教育センター所属の中国語講師であり、基礎中国語を担当している曹泰和先生と馮曰珍先生に先方との交渉役をお願いし、これまでの英語から中国語での交渉に変わった。先方と中国語圏の双方が互いの事情をすりあわせながら、研修計画を練る形となり、大枠が出来上がり学生の募集のチラシを作成し、学生に配布したのが５月初旬であった。今年度から中国語圏の主任となった宮尾正樹先生と曹先生、馮先生が今回の短期中国語研修に関わる様々な作業にあたられ、この研修が実現したのである。私はほんの入り口の口利きをしただけで、今回の研修の成功は３名の先生のご尽力の賜物であると思っている。

研修の参加学生は１年生が多く、海外旅行が初めての学生も少なくなかった。短期間ではあるが、北京での経験が彼女らの心の中で熟成し、新しい花を咲かせてくれればと願っている。２週間みな元気で活動してくれて、よかった。

なお今回の研修にあたっては、グローバルリーダーシップ研究所教育研究プロジェクトのご支援をいただきましたことを記し、ここに感謝の意を表します。

目　次

はじめに　——中国語短期語学研修を終えて——　伊藤　美重子
研修日程

＝学生レポート＝
五十嵐　陸　北京で得たこと
大越　彩也加　北京語学研修を終えて
大村　咲希　言葉を「使う」こと
神田　鈴奈　中国での２週間
木下　奈旺　中華料理
呉　碧媛　北京外国語大学語学研修
後藤　彩　北京語学研修を終えて
佐藤　甘奈　驚いたこと
杉本　優花　初海外、初北京
髙木　寛子　北京語学研修を終えて
田口　有佑子　積極的な行動力
竹内　詩織　北京語学研修で感じたこと
富田　明日香　２週間の北京滞在を経て
中島　優希　文化の違いと人との関わり
西岡　実乃里　実際に体験するということ
升本　恵理菜　中国に滞在してみて
安田　佳代　北京で広がった私の世界

＝アドバイザーから＝
続　昕宇　最美好的回忆

＝引率教員から＝
曹　泰和　五日間の引率を終えて
馮　曰珍　中国語短期研修を終えて

おわりに　宮尾　正樹

＊＊研修日程＊＊

		午　前	午　後　・　夜
9 月 13 日	日	9:10 発　JL-021 便　北京へ	12:05 着　北京首都国際空港 北京如意商務賓館へ
14 日	月	開講式・クラス分け試験・ 中国語授業	昼：歓迎会、校内見学
15 日	火	8:00 － 12:00　中国語授業 （50 分× 4 コマ）	自由行動
16 日	水		午後　天安門広場と故宮　見学 夜　　雑技鑑賞
17 日	木		午後　佳能 (canon) 信息技術公司訪問
18 日	金		自由行動
19 日	土	万里の長城（八達嶺）	明の十三陵（定陵・神路）見学
20 日	日	終日：自由行動	
21 日	月	8:00 － 12:00　中国語授業 （50 分× 4 コマ）	自由行動
22 日	火		自由行動
23 日	水		夜　京劇鑑賞
24 日	木		夜　北京外国語大学日語科学生との交流会
25 日	金	修了試験	自由行動
26 日	土	16:40 発　JL-022 便　東京へ	21:10 着　羽田空港到着後、解散

＊＊学生レポート＊＊

北京で得たこと

文教育学部言語文化学科　１年　五十嵐陸

今回私は初めて中国に行きました。中国に留学していた親戚がいるため、昔から中国文化や中国語について耳にする機会は多かったのですが、行こうと思ったことは今までありませんでした。中国語も四月に始めたばかりでほとんど分からないため、言葉の通じない土地に行くことに対する不安もありました。ですが今回はお茶大独自の企画で、先生や現地のガイドさんがつくということで思い切って参加し､良い経験をすることができました。

今回行ってみて強く思ったことは、自分が考えていたよりもずっと中国は暮らしやすいのかもしれないということでした。中国語は分からなくても漢字があれば意味はなんとなく分かり、街の雰囲気もそこまで異国という感じはしませんでした。電車の仕組みも日本の地下鉄に似ていて、乗り換えが簡単な分、かえって日本よりも分かりやすいなと感じました。食べ物も日本にあるファストフード店がほとんど同じメニューで展開されていたり、日本で食べたことのある中国料理があったりして、食事が合わないということもありませんでした。

大学での中国語の授業は、始めのうちは想像よりも大変でした。普段の授業は日本語で解説されますが、今回は中国語か英語で中国語を説明するという形であり、どちらも聞き取るのに苦労しました。質問も中国語か英語でしなければならないため、あまり積極的に訊くことはできませんでした。ですが、リスニング能力は普段の授業よりもかなり鍛えられたと感じます。最初の授業でほとんど聞き取れないことを自覚したため、ホテルの部屋に戻ってからリスニング教材を聞き、毎日予習復習をしました。テキストにない単語も授業中に沢山出てきたため、自分で持ってきた単語帳に載っているものもランダムに勉強してから授業を受けるようにしました。時々ですが、前日に勉強した単語が授業中に使われたこともあり、勉強の効果を実感しました。半日だけの授業で午後は自由行動だったため、勉強に費やす時間を確保することが重要だと改めて思いました。

観光では、北京動物園や万里の長城、京劇など代表的なものは二週間で一通り見ることができました。学生だけで出掛けることがほとんどで、言葉はあまり通じませんでしたが、自分たちだけで話す努力、聞く努力をしたことには意味があったと思います。分からないことにもどかしさもあったので、今後の学習の励みになりました。日本語の勉強を熱心にしている中国の大学生との交流も刺激になりました。この交流をこれからも続けていきたいと思いましたし、この研修をきっかけに知り合ったお茶大生とも一緒に勉強していけたら良いと考えています。

北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科　１年　大越彩也加

まず研修の概要は、午前中に中国語の授業をして、午後は自由行動で北京動物園や頤和園などの観光地を各自で見学するというようなスケジュールでした。中国語での授業は先生が話している内容を理解することが大変ではありましたが、この２週間の間でも少しは上達して聞き取れるようになっていると感じることもあってうれしかったし、楽しかったです。授業の内容自体は１年生向けであったのでいっぱいいっぱいにならずについていくことができました。自由行動の時にはまず地下鉄に乗ることや入場券を買うこと、食事の時にほぼ中国語を話せないし聞き取れない自分たちだけでできるのかと不安でしたが、話せなかったとしても身振り手振りでなんとかなるものなのだということがよくわかりました。皆で万里の長城に行ったり、京劇をみたりして授業以外でもとても充実した研修となりました。

私はこれまで外国に行ったことがなかったので今回はじめて中国に行ってみて一番感じたことは、日本と中国の違いでした。曇りの多い乾燥した天候、歩行者ではなく車優先の交通事情、無愛想に思える接客、学校の寮に学生全員が住むという学校のスタイル、朝夜の公園で踊る近所の人々など挙げたらきりがないけれど様々な面でその違いに驚きました。中国人の人柄をみても、２週間しか生活しなかったから深くはわかった訳ではないけれど、強くてたくましい人達だなと感じました。自己主張が激しくて一歩も引かずに言い争っている場面をしばしば見かけました。それと比べると日本人はやはり静かで真面目な人達が多いのだろうなと改めて感じました。でもどちらが良くないという訳でもなくて、それぞれの国民性でありどちらも大切にすべきものなのだなと感じま

す。日本から一歩外に出て外国に行き広い世界を見てみることで今まで当たり前であったことがそうではなかったことを知り、より広い視野で考えることができるようになるなと思ったし、価値観も変わってくるのだと感じました。語学の上達の為だけではなくてそういった面でも外国で生活してみることは大切であると感じて、また留学してみたいと思った北京語学研修でした。

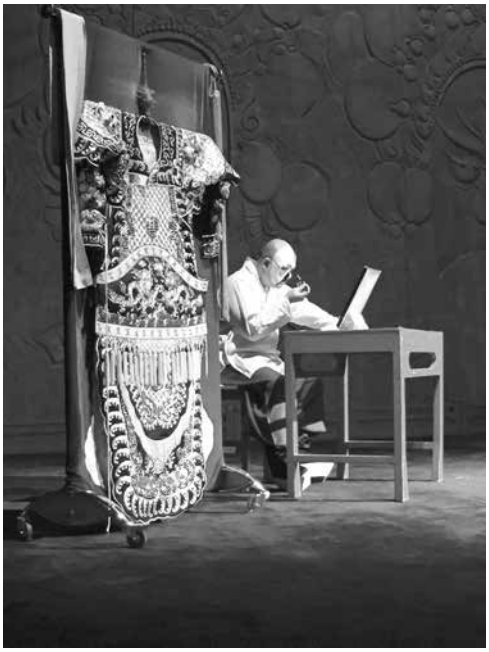
言葉を「使う」こと

文教育学部言語文化学科　1年　大村咲希

この語学研修では、とくに後半の一週間の間は午後からホテルに帰るまで引率の先生はおらず、自分たちだけで行動することが多かった。そこで感じたのが、言葉を「使う」難しさだ。レストランで注文する際に、懸命に覚えた単語を使ってみるも発音のためかなかなか通じない。「これ」と言っているだけのはずなのに怪訝な顔をされている、気がする。知っているはずの数字の聞き取りがすぐにはできなくて、何度も言わせてしまう。食事をするとき、店員さんに言われることはたいてい驚くほどわからなかった。毛ほどもわからなかった。毎日午前中に行われる授業では生活で使える言葉を多く、繰り返し教えていただけたし、初めの数日に引率の先生方に教えていただいた「こういうときはこう言う」といういくつかの便利な言葉も頭に入れた。しかし、言葉を「知っている」「覚えている」だけでは使えないのだと痛感した。海外に行くのも、実際に外国語を意思疎通のために使ったのも初めてで、打たれ弱い私は正直中国語をあまり使いたくなくなった。身振り手振りと筆談に頼り、必要がなければ口を開かない。英語が使えるときは英語を使ったが、英語ですらろくに言いたいことが言えない。あー、とかうー、とか言いつつどうにか日本語英語を話しながら、中国の人のおしなべてきれいな英語の発音に萎縮していた。そしておそらく他の人より中国語を使う体験が少ないままに迎えた最終日。私はホテルに一番近い銀行に両替に行ったのだが、土曜日であったため両替は行っていなかったようで、行員さんが何か説明してくれた。「……別的银行、…北京银行…」なるほど！北京銀行！別の銀行、北京銀行に行ってくれと言っているのだ。「別の」も「銀行」も「北京」も授業で散々やった。これが聞き取れたとき私は興奮せざるをえなかった。中国語を聞いて、必要な情報を掴めた、役立てられたことが嬉しかった。张老师にこの喜びを伝えたい。张老师はこの研修で私たちの授業を担当してくださった先生だ。私は授業中もなかなか先生の言うことが聞き取れず、何回も繰り返していただいていた。この銀行での出来事で、私は俄然中国語を使いたい欲が湧いてきた。もう最終日なのに。帰ってホテルの掃除の方と少し話した。

また、北京外国語大学の日本語科の方々とお話できたことも刺激になった。交流会にいらしてくれた皆さんはすでに六年間日本語を習っていて、私たちとごく普通に、様々な話題について日本語で会話をすることができた。私は中高六年間英語を学んだが、前述の通りである。自分もこうなれるはずなんだ、こうなるべきだと思った。

言語は活かすことがわかりやすい学びだ。実際に活かす体験をして、中国語を学ぶことに対して熱意が増した。ここに書ききれなかった言語の学習以外の学びや体験も本当にたくさんあった、一言で言ってしまうと行ってよかった。実り多い語学研修であった。



上演前に隈取りをする京劇役者。大村撮影。

中国での２週間

生活科学部人間生活学科　１年　神田鈴奈

平日は午前中に授業があり、午後からは自由行動でした。授業では、すべてが中国語で、初めのうちは先生が何を言っているのか理解するのが大変でしたが研修が終わるころには､少しずつでしたが､先生の言っていることがわかるようになっていきました。日本語を一切使わず受ける授業では写真やジェスチャーなどを使い、やさしく丁寧でわかりやすい授業になっていて、小学生の頃に戻ったような新鮮さを感じました。毎日、中国語を聞いたり話したりしているうちに、日に日にスーパーや商店街などで値段を言われて、聞き取れるようになったのは私にとって一番のうれしさでした。

休日には、みんなで万里の長城、京劇、雑技団、明の十三陵、天安門広場など有名な観光地をまわることができ、いい思い出になりました。自由行動では、商店街や動物園などたくさんのいろんな場所に行きました。そこでは､日本では売っていない生きたサソリや、日本とは異なった中国ならではの文化を見ることができ、新しい発見が得られました。そして、商店街では予想以上に商品の値下げをできることに驚きつつ、得な買い物をすることができてよかったです。

わたしは、学校からホテルまで歩いて帰ったり、いろいろな食堂で何とか中国語が話せないながらも工夫して注文したりと、いろんなことに挑戦しました。結果失敗だったことはあったけれど、そのおかげで充実した、とても楽しい２週間を過ごすことができたと感じています。自由行動では、どこか限られたところだけに行くのではなく、なるべくいろんなところに行ってみると、たくさんの驚きや発見が得られて楽しい時間が過ごせると思います。

初めての中国、最初はとても不安で仕方がなかったけれど、学年、学科関係なく、みんなと仲良くなれて、とても楽しい２週間が送れてとてもよかったです。そして、中国語が得意でなかった私でも、この２週間の語学研修で自分の成長を身をもって感じることができました。この研修に参加してよかったです。

中華料理

文教育学部言語文化学科　１年　木下奈旺

私が今回の留学で最も印象に残ったことは、中華料理です。

中国に到着した日の夕食から、出発する日の昼食まで、中国の食材を使った、本場の中華料理を食べました。

私が一番初めに驚いたのは、中華料理の量の多さです。日本では普通、一皿頼むとだいたい一人前の量で食事が出てきます。しかし、中国では、複数人でテーブルを囲むので、一皿が一人前ではないことが多かったです。北京に着いたばかりのころは、それがわからず、同室の子と二人で麺屋さんに行って、一人一つずつ注文してしまい、量は多いのに味がずっと一緒で、ちょっと苦しかったです。

そのあと、その経験から、他の部屋の子たちを誘って、4 人から 8 人で食事に行くようにしました。そうしたら、量もちょうどよく、たくさんの種類が食べられるので飽きることもなく、おいしく中華料理を食べることができました。

また、食べ物の値段にも驚きました。日本では、ランチに 500 円から 1000 円、ディナーに 1000 円から 2000 円程度はかかりますが、中国では、ランチもディナーも料金は変わらず、安いところだと一人当たり 15 元（日本円でおよ 300 円)、高くても 50 元（日本円でおよそ 1000 円）で食べられます。一皿一皿の料金は少し高いなと思っても、上に書いたように、大人数で割れば、意外と安くおいしいものがたくさん食べられます。

果物などもとても安く売っていました。私は中国産果物を作るときに大量に使用されているという農薬が怖かったので、皮をむいて食べる、みかんなどの柑橘類しか買いませんでしたが、他の果物も、日本よりはるかに安い値段で売っていました。ホテルで食べる朝食は、バイキング形式だったのですが、そこで食べたスイカがとてもおいしかったです。

朝食の主食は、ごはんやパン、おかゆなど、観光客のお腹にうれしい様々な種類のものが出ていました。中国っぽいなと思ったのは、主食に肉まんなど、まんじゅう系のものが出ていたところです。味も、ほとんど日本と変わりませんでした。でも、やはり中華料理は油が多かったです。朝から油をふんだんに使った野

菜炒めと、肉団子（小さい唐揚げのようなもの）が出ていて、やっぱりそこは中国だなと思いました。

中国の料理は油が多いからお腹を下しやすいと聞いていましたが、私自身は、そのようなこともなく、二週間、楽しく、おいしい中華料理を食べることができました。

一番おいしかったのはやはり、最終日に食べた北京ダックです。
一生に一度は食べるべきだなと思いました。

北京外国語大学語学研修

生活科学部　人間環境科学科　１年　呉碧媛

今回私が語学研修に行こうと思ったのにはあるきっかけがあります。私は両親が中国人であり、中国国籍です。ですが日本生まれ日本育ちで家庭でも主に日本語で会話してきました。それゆえ中国語は少し聞き取れるものの読み書きや話すことがほとんどできませんでした。大学に入ってから第二外国語できちんと勉強して日常会話レベルはできるようになろうと思っていました。大学で第二外国語として中国語を学んで４ヶ月、読み書きが多少ながらできるようになりました。もともと夏休みはどこか留学に行こうと思っていたのでこの研修の話を聞いてちょうど良い機会ですし、何より少しできるようになった中国語を使える！と思い、参加しました。

また、この研修のスケジュールやシステムに関してですが、留学と聞くとホームステイや寮にお邪魔すると思っていたのですがこの研修ではビジネスホテルに２週間宿泊するというものでした。ツアーが入る日もありますし、手厚だなと感じました。授業も現地の学生と一緒ではなくお茶大生だけで中国語での少人数制の授業なので他学部のお茶大生とすごく仲良くなれます。ただ、現地の学生との交流があまりなかったことが個人的に残念でした。２週間はすごく短かったので、長期留学に向けて練習だと捉えるとしっくりくると思います。

私は北京に行くのは５回目ですがそれでも新たな発見が沢山ありました。いざ自分で市内を移動して、ご飯をどうするか決めて、お金を出して、となると成長するところが沢山ありました。例えば、中国の交通事情です。中国は交通量が日本とは比べ物にならないほど多く、朝や夕方は通勤・帰宅ラッシュで普通の道路が車で埋まります。遅延が発生しやすい環境なのでバスも時刻表がなく、だいたい何分に１本というような感じでした。そこが特に衝撃的でした。人より車が優先という概念なので道路一本横断するのにも一苦労ですしヒヤヒヤしますがだいたい皆さん２週間もいれば慣れていました。また、北京で公共の交通機関が発達したのがつい数十年の話なので安全面が追及されています。地下鉄に乗るのにも荷物検査、新幹線だとさらにパスポートが必要になってきます。日本では日常生活でパスポートを使うことは少ないですが、国家博物館などの公共施設に入る際にも必要でした。他にも日本とは違う生活面が沢山あり、いい勉強になります。

また、個人的に楽しみにしていたのは日本にもある海外のメーカーや飲食店を見ることでした。吉野家やスターバックスコーヒー、アディダスやシャネルなど有名な店が多くあります。価格は日本とどう違うのかはもちろん中国語ではどう発音するのか、どう漢字で表記されるのかをよく観察するのが意外と面白かったです。

観光も多くしますが午前中は基本授業です。自分でもスピーキング力があがったなと実感しました。英語が通じることが多くないので中国語を話さざるを得ないという環境はいい刺激だったと思います。現地の学生の影響も強く、より中国語を学びたいという気持ちで帰って来ることができました。

クラス分けのテスト。２クラスに分かれるので、実際の授業は 10 人以内の小クラス。

北京語学研修を終えて

生活科学部人間生活学科　１年　後藤彩

私は今回の研修が初めての中国でした。そのため出発する前は治安や環境に対する不安を抱いていました。しかし実際に行ってみると、北京は私の想像以上に都会的で、いつも人々の活気で溢れていました。道端で果物を大声で売っている人々、行き交うたくさんの車や人…。今の日本では感じられないその雰囲気、中国人のバイタリティーに、始めはただただ圧倒されました。しかし途中からは、その中国人の元気の良さや勢いに触発されて、毎晩夜の公園で踊る人たちに混ざる、強気で品物を値切る、車がたくさん通る横断歩道を堂々と渡るなど、自分からその雰囲気に溶け込もうとしました。お金を取られるなどのハプニングもありましたが、結果とても刺激的で楽しい日々を過ごすことができました。

まず、毎日の中国語の授業はとても楽しく勉強になりました。日常会話に使える内容が多く、その日の午前中に学習したものを午後に実際に使うことができ、その時使った課文は体に定着したのではないかと思います。私は毎晩友人とテキストの音読や単語の勉強などをしました。中国語に対してこんなに正面から向き合ったのは初めてでした。また個人的には、英語－中国語変換のテキストが使いやすかったので、今後の中国語学習に役立てていこうと思います。

Canon への企業訪問では、北京が好きで自ら北京で働きだした方・会社の都合で北京勤務になった方という対照的なお二人からお話を聞くことができました。話題は北京での暮らしから、外資系企業として中国で活動するにあたって大変なこと、中国という国の性質など多岐に渡りました。お二人の全く異なった視点からのお話を聞き、日本人として中国で働くことについて考えることができました。個人的に心に残っているのは、人々は抗日意識をあまり持っていないということです。友人などとの間でジョークとして使われることはあっても、政府の抗日方針に対して人々はほぼ無関心であるというのは、日本ではわからないことでしたので驚きました。また、北京外国語大学の日本語科学生との交流会では、北京の学生とたわいもないアイドルや恋愛の話で盛り上がり、良い友人もでき、同じ大学生として交流できる喜びを感じました。

日本と中国は近いですが、メディアの情報にはバイアスがかかっていることが多く、やはり現地で生活し現地に住む人々と直接関わってみないとわからないことが沢山あります。今回の研修を経て、中国という国に対するイメージが良くも悪くも膨らんだことはとてもよかったです。外国でマイノリティとして暮らすことには生活や言葉、政治をはじめとした多くの問題が付きまといます。しかしそれでもどうにか生活していける国だということがわかったのは、今後の自分にとって貴重な経験になると思いました。そして確実に中国という国がさらに好きになりました。

驚いたこと

生活科学部人間・環境科学科　１年　佐藤甘奈

記憶にある中では今回が初めての海外で、日本との違いに驚くことが数多くあった。一つ目は道路の渡り方。日本では広い道路なら必ず信号機や横断歩道がある。さらに歩行者が横断歩道を渡ろうとすると、車は止まってくれるはずだ。しかし北京では交通量が多いにもかかわらず信号機はほとんどなく、その上車が優先だった。私たちが道路を渡ることを躊躇していても車は一向に止まってくれない。道路を渡っている最中でも、車はどんどん近づいてくるのだ。友人たちと「わー！こわいこわい！！轢かれそう！渡れないよ！！」とギャーギャー言いながら道路を渡るのは決して日本ではできない経験で、少し身の危険を感じたが楽しかった。控えめな日本人が北京の道路を渡るのに慣れるのは時間がかかるだろう。二つ目は、歩道にゴミ箱が多いこと。１０メートルおきくらいにゴミ箱が設置してあった。日本では家以外でゴミ箱があるところといえば駅の改札の中や、コンビニの前くらいだろう。北京にゴミ箱が多い理由を聞いたところ、主な理由は二つあることがわかった。第一に歩きながらものを食べる人が多いため。確かに北京では道のいたるところでアイスや果物、串焼きが売られていた。これは日本では見られない光景だ。第二にゴミを持ち帰るという習慣がないため。北京の人の多くはゴミ箱がなければ道端にゴミを置いて行ってしまうそうだ。日本では様々なところで、“ゴミは持ち帰りましょう”というような貼り紙や看板を見かける。そのためある程度は自分で出したゴミは自分で処分する習慣がついているだろう。しかしコンビニの前のゴミ箱がいつもパ

ンパンになっていることを考えるとその意識は徹底されておらず、またいかに街中にゴミ箱が少ないかがわかる。5年後には日本で東京オリンピックが開催され、あらゆる国から多くの人が日本にやってくることは間違いない。その際ゴミ箱の数が今のままではポイ捨てが増加し、街を綺麗に保っていくことが困難になるのではないだろうか。一方でゴミ箱をたくさん設置することにより、その中に危険物が投げ込まれてしまうリスクが高くなる。安全性と快適さの兼ね合いが難しいところではあるが、このままではいけないと感じた。2週間北京に滞在したことで日本のマナーの良さを再認識できたし、日本が学ぶべきことがあることにも気づかされた。

初海外、初北京

文教育学部言語文化学科　1年　杉本優花

私が今回の研修に参加しようと思った理由は、夏休みの2週間で中国語を学ぶことができ、観光もできると聞いたからです。さらに、お茶大の先生方も同伴されるということも参加を決めた理由の一つでした。実際に、現地では先生方にいろいろなことを助けていただき、多くのアドバイスをいただけたからこそ、北京で2週間を過ごすことができました。北京の生活は全てが新鮮でした。わたしは今まで日本しか見たことがなかったので、その違いに余計衝撃を受けたのだと思います。例えば、北京の道路は広く車線がいくつもありましたが、車が多すぎて常に渋滞している状態でした。また、車が優先なので歩行者は車が来ないタイミングを見計らって渡るしかありませんでした。初めは行き交う車が怖くて道路を渡ることさえ辛かったです。また、北京の物価にも驚きました。食べ物でいえば、中華料理は美味しくて安くて満足できたし、スーパーで売っているたいていの物は日本より安く買えました。移動には主に地下鉄を利用したのですが、日本と比べると安く移動でき、乗り換えも楽でした。同時に、言葉が全く通じない環境は苦しくもありました。特に、スーパーでの買い物や料理屋でご飯を食べる時に相手の言っていることが全く分からなくて苦労しました。そのような状況の中で何とか2週間を過ごすことができたけれど、私はもっと中国語を聞き取れるように、話せるようになりたいと思いました。今後の学習のモチベーションが上がった気がします。

北京での日常生活はもちろん、北京外国語大学での授業も楽しく充実したものでした。授業は中国語の簡単な会話を学ぶだけでなく、中国での流行の歌や有名な歌を聞いたり、映画を見たりもしました。さらに雑技や京劇の鑑賞をしたことで、中国の文化をより身近に感じることができました。

日本と中国は世界の距離で言えばとても近いけれど、言ってみるとこんなに違うのだ、と思うことが多かったです。短い間でしたが、研修に参加したお茶大生の皆さんとも学年や学部を越えて仲良くなることができ、多くのことを経験できた、充実した2週間でした。これを機に、北京だけではなく他の国にもたくさん訪れてみたいです。

北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科　1年　髙木寛子

9月13日から26日までの2週間、北京外国語大学での語学研修に参加しました。期間や時期、大学側からのサポートが手厚いなどの理由からこのプログラムへの参加を決めました。4月に中国語を学び始めたばかりで、しかも初めての海外であったため不安もとても大きかったのですが、語学研修を終えた今、得たものは多く、参加してよかったと思います。

日本での生活しか知らなかった私にとって、北京での生活は驚きの連続でした。私たちは大学からほど近いビジネスホテルに2週間滞在し、周辺にはスーパーや銀行、レストランなど生活に必要な場所がそろっていました。まず一番に驚いたのは交通についてです。事前に中国は右側通行で車優先の社会だとは聞いていましたが、想像を超えた交通量で信号はあまりなく、始めのころは道路を横断するのにも一苦労という状況でした。また、果物屋があちらこちらにあり果物をよく食べることや、公園に多くの人が集まりダンスをすることなど中国に住んでいる方には当り前でも私にとっては新鮮に感じました。報道でよく耳にする中国ですが、報じられるのはほんの一部で行ってみて初めて分かることばかりだと気が付きました。

授業は50分×4の午前中のみで、日常会話が主な学習内容でした。教科書に載っている文法と単語しか知らない私にとって、中国語での授業は難しく、始め

は先生に英語で説明してもらわないと理解できないレベルでした。しかし先生がジェスチャーや分かり易い中国語で説明してくださるので、次第に中国語でもなんとなく説明が理解できるようになりました。ゲーム形式で単語を覚えたり、歌やダンスを通じて中国文化に触れたり、毎日の授業は楽しくあっという間でした。日常生活で聞こえてくる中国語は速く、私には聞き取れないことが多かったのですが、習った単語が聞こえてくるとうれしくなりました。どの言語でも学習する際は、その言語にたくさん触れ、その言語をその言語で理解することが大切なのではないかと思います。

言葉が通じないとレストランで食事をするだけでもドキドキハラハラし、相手と話し合いトラブルを解消することもできません。2週間という期間はあまりにも短く、自分の語学力がどの程度向上したのか定かではありませんが、言葉の大切さ、伝えることの難しさを知ることができ、語学力を高めたいと思うようになりました。また、日本と隣国中国との文化、考え方の違いを肌で感じることで自分が生活してきた世界の狭さを改めて実感しました。最後に、中文コースの先生方、現地アドバイザーの続姐をはじめ多くの方の支えがあったからこそ無事に研修を終えることができました。ありがとうございました。

積極的な行動力

生活科学部人間生活学科　1年　田口有佑子

この語学研修では、短期間での外国語の能力上達というのは自分自身の行動次第であるということを、身をもって体験できる機会になったと思います。

まず、街に出てみると、英語はほとんど通じません。確かに若者の英語の発音は、母国語が英語ではないという共通点があるにもかかわらず、日本人の若者と比べると、非常に流暢なのですが、少し上の年代の方々には、英語は全く通じません。私たち日本人にとっては、中国は「外国」であるから英語が通じるものだと思っていたけれど、超市やレストラン、ホテルなどでは中国語で話さなければ意思疎通ができないという状況になり、最初は相手の中国語の話す速さについていけず、理解できなくてもどかしいという気持ちを抱いていました。しかし、私が受けていた授業も、日本語で教えることはなく、すべて中国語での授業だったため、少しずつですが、耳が中国語に慣れていき、放課後の自由行動でも、値段の交渉をしてみたり、食事のメニューのお勧めを聞いたり、味の好みを伝えたり、道を聞いてみたりするようになり、現地の人の話す速さにも慣れていくことができました。意思疎通ができるようになったと感じると、行動範囲が広がっていくため、頤和園、前門、北京動物園、南鑼鼓巷など多くの場所に足を運ぶことができるようになり、より一層中国での生活が楽しくなっていきました。このような体験の中で、自分から積極的に人に対して行動していかなければ、二週間という短期間では語学能力の上達は難しいことだということも感じました。

また、食事が本当に美味しかったです。私は同じお店に何度もいくのはもったいないと考え、次いつ来るかわからない北京に来ているのだから、できるだけ多くのお店に行ってみようという想いで、いろいろなところで食事を楽しむことができました。路面で売っていたごま団子、ぶどう、栗そして芋などは本当に美味しかったです。お店では、店員が私が中国人ではないとわかると、メニューの説明やお会計の説明をお店が混んでいるにもかかわらず、私たちに時間を割いてくれたので、人の優しさに触れることが普段よりも多かったように感じました。そこで、簡単ではあるけれど中国語で意思疎通ができることに幸せを感じたので、より一層、中国語だけではなく外国語を今まで以上にしっかり学ぼうという意欲が強くなりました。

今回の語学研修は、大学生ということもあってか、自由に行動する場面が多く、せっかくの機会をどのように生かすのかは自分次第であるということ強く感じました。現地の生活習慣、中国の文化、人柄に触れることで、中国語を学ぶことに対する意識が変化しました。大学一年生の夏休みにこのような素晴らしい経験を得ることができてよかったです。

北京語学研修で感じたこと

理学部数学科　1年　竹内詩織

まず、今回北京語学研修に参加して私が1番感じたことは、自分自身の成長です。この留学に参加する前の私の中国語のレベルはあまりにも低く、オール中国語の授業なんて絶対出来ない、何も分からず半日ただボーっとしているだけになってしまうのではないか、と思っていました。しかし実際に授業を受けてみると、北京外国語大学の先生はとても優しく、私たちが理解できていないような顔をしていると、英語に置き換えたりジェスチャーを使ったりして分かりやすく教えてくださいました。月曜日から金曜日の8時から12時まで毎日4時間の授業でしたが、ビンゴなどのゲームもやったりして、授業が長いと感じたことは1度もありませんでした。むしろ毎日授業が楽しみでした。内容も日常生活に役立つことばかりだったので、習ったその日から実践的に使うことが出来ました。自分の中国語が現地の中国人に伝わった時はとても嬉しかったし、もっと色々なフレーズを使ってみたいと思えるようになりました。

また、この2週間でリスニング力が向上しました。最初はスーパーでの買い物やレストランでの食事の時、店員さんの言う値段が全く聞き取れず、数字を書いてもらわないと分かりませんでした。しかし、だんだんと耳が慣れてきて、1週間もすると聞き返さなくても理解できるようになりました。私はお茶の水女子大学での授業でリスニングが1番苦手だったので、自分で様々なことを聞き取れたときは本当に感動しました。

この2週間で様々な中国人とコミュニケーションをとることができました。その中で気づいたのは中国人の優しさです。日本ではニュースなどで中国について取り上げる時、マイナス面を大きく報じているためか、私は中国についてマイナスイメージを持っていました。しかし実際は、優しく道を教えてくれたり、私たちが外国人だと気づくと分かりやすく英語で話しかけてくれたりと、人の温かさを感じました。やはりメディアで報じられていることは物事の1つの側面に過ぎず、もっと広い目で見るべきなのだと改めて考えさせられました。

今回の北京語学研修で、理学部から参加したのは私だけでした。このような留学は文系の人が行くイメージですが、私が参加して感じたことは理系の人でも行く価値が大いにあるという事です。今回中国に行ったことで、自分とは違う文化に触れることができ、新たな価値観を得られました。この留学に参加していなかったら気づかなかったであろうことも多くありました。今までの自分の視野の狭さを痛感し、視野を広く持つことの重要さを学びました。

２週間の北京滞在を経て

文教育学部言語文化学科　２年　富田明日香

今回の２週間の研修が始まる前に私が最も恐れていたこと、それは平日午後と日曜日に設けられていた自由時間だ。なぜなら、自分の語学力を活かして現地に暮らす人々とコミュニケーションを図るのが今回初めてだったからである。過去にも北京を訪れたことはあるが、ずっと日本語が通じる中国人がすぐそばにいたため、自分で会話することがなかったのだ。

この２週間、平日の午前中は北京外大にて、みっちり且つ楽しく中国語の学習に励むことができた。日本語が通じない先生の元で勉強することにより、自分から進んで中国語で会話を試みることができた。さらに、わからない単語に遭遇しても別の言葉で言い換える努力をするようになった。また、授業の際に先生が日常で使える表現 (地下鉄の乗り方や乗り換えの仕方、乗り換え時のフレーズや両替の仕方など) をたくさん教えてくれたため、街に繰り出して困難な場面に遭遇した時もなんとか乗り越えることができた。

自らの力で街中に飛び込み、人々と交流することで得られるものは多かった。今まで日本という国の中にとどまり続け、日本国内からしか中国を見ることができなかったため、中国について得られる情報は圧倒的に少なかった。そのため、偏見を持ってしまうこともあった。だが、実際に日本を出て中国を訪れ、現地の人と交流することで、日本人には伝わってきていない中国人のいろんな部分を見ることができた気がする。

その一番大きな例としてあげられるのがマナーだ。日本と中国ではマナーにたくさんの違いが見られた。道路を横断するのが命がけなのが一番びっくりした。でも、マナーの違いを理解することで日本と中国の文化の違いも理解できた気がして、とても面白かった。

この研修を通して、より中国に興味を持ち、中国の

ことを好きになることができた。それは、私だけでなく他の参加者も思っていると私は感じている。来年以降もこの研修が企画されるならば、学部学科関係なくもっと多くの人に参加して欲しいと思うし、私ももう一度参加したい。それほどに有意義な２週間だった。

文化の違いと人との関わり

文教育学部人文科学科　２年　中島優希

今回の留学で、万里の長城や天安門、故宮博物館など、北京で見るべきものの多くを実際に目にすることができました。どれも感動し、良い思い出を作ることができましたが、それらよりも、この留学中に実際に見た中国の生活、街を歩く中での小さな発見が常に私を驚かせました。それは、いいと思うことも、不快に思うこともどちらもありましたが、それを「常識はずれ」と判断する常識自体も日本という限られた空間の中だけのことであることにも改めて気づきました。特に生活する中で実感したのは、良くも悪くも日本よりも、人的な接触、コミュニケーションが多いということでした。店で物を買う、食事をする、銀行でエクスチェンジをする、露店の呼び込みに合う、お土産を勧められる、道を渡るときに一緒にわたるなど。言葉が通じない中でも、人と接する場面が多かった気がしました。人によって優しい人、面倒見のいい人、適当な人、つっけんどんな人、日本なら事務的で、外には出さず、見えないところも普通に見ることができるのも面白いことです。

最初、中国の人々は外国人に対してあまり親切でないイメージは少しありました。しかし、必ずしもそうではないし、むしろ好意的である場合も少なくありませんでした。特に、日本に興味を持っている人が、話しかけてくれたことも何度かありましたが、そのような接触にも本当に積極的でした。また、店では、確かに、高すぎる値段をつけてあったり、執拗に商品を勧められたりして戸惑うこともありましたが、大きなデパートのお店などでも、サービスをしてくれたり、何度か行った飲食店などでは、顔を覚えてくれていて、対応に差が出たりするのは今の日本との大きな違いです。中国では、やりたいことを自分の意志で行う人が多いのかもしれないと感じました。よい面だけではありませんが、車のクラクションや、よく見かける口論も、その様な考え方の表れかなと思うと、一概に悪いとは言えないかもしれません。目の前で始められると驚いてしまいますが。

人との関わりに関して、Canon を見学させていただいたときに聞いたお話も、心に残りました。国を超えて展開する企業の努力、苦労はもちろんですが、個人個人として海外で、中国での生活上の経験談は、その見学会後の生活においての視点を変えてくれました。違うと思いつつも、意外とその環境に順応できてしまうのだなと思いました。しかも、日本の中から見る海外のイメージだけでは、実際の生活上の出来事は割り切ることができないことが分かりました。

二週間多くのことを経験しましたが、一緒にプログラムに参加したメンバー、大学の先生、アドバイザーの方、ガイドさんなど、他にも様々なところで良縁に恵まれた旅でした。常に笑って、この留学を楽しめたことで、この二週間すべてが素晴らしい思い出になったと思います。

図書館前

実際に体験するということ

生活科学部人間生活学科　３年　西岡実乃里

私はこの短期語学研修に参加してよかったと心から思っています。参加する前は「たった」二週間で中国語が上達するわけがない、二週間「も」日本を離れるなんて無理だ、などと考えていました。そして私にとって一番悩みの種になっていたことは、私が三年生であることです。学年も違う、学部も学科も違う、そんな人たちと一緒に行って大丈夫なのか、そんなことばかりを考え、不安ばかりでした。そんなマイナスな気持ちから始まったこの語学研修がどのような点で自分にプラスになったのか、三つの観点から触れていきます。

一つ目は大学の授業です。少人数なのにも関わらず、レベルごとにクラス分けをしてくれたので、さらに自分に合った中で授業を受けることができました。担当の張先生は基本的な文法事項はもちろん、日常に活かしていくことができるフレーズを教えてくれたり、先生が授業中によく使う言い回しを聞いて、現地の人の話し方を学ぶこともできました。二週間毎日四時間授業を受け続けて行く中で、どんどん自分の力がついてきている実感がありました。たった二週間と思っていたけれど、毎日やることで絶対に力になると思いました。

二つ目は自由行動や、ツアーでの北京観光です。有名どころはツアーで組み込まれていたので、ガイドさんの説明を聞きながら、今まで教科書で見ていたような場所を実際に見ることができました。ほとんどの日は午前中に学校で、午後が自由時間でした。本当に毎日様々なところに出かけましたが、行くところ行くところの規模の大きさにいつも驚かされました。観光は楽しむだけではありません。ここもまた学ぶ場です。どこに行くにもバスや地下鉄に乗らなければなりません。どこに行っても大体チケットを買わなければなりません。レストランでの注文ももちろん自分でしなければなりません。ここで使うのが、午前中に授業で習った中国語です。学んだばかりの中国語を、午後には実践で使いながら学ぶ、観光中は楽しいばかりが先行していて気がつかなかったけれど、今振り返ってみると最初は身振り手振り、指差しなどで試行錯誤していたのが、後半になるにつれ、きちんと中国語でコミュニケーションが取れるようになっていたと感じます。

三つ目は中国の文化についてです。中国のトイレ事情、地下鉄事情、大気 (PM2.5 など) 事情、食べ物事情、スーパー事情等、様々な文化に触れてきました。このように北京で過ごしてみて気がついたことは、「私たち (日本人) の当たり前が中国では当たり前ではないということ」です。今まで日本で20年間過ごしてきた私にとって、マナーやしきたりとして身についてきたことが、当たり前で正しいことだと思い込んでいました。だからこそ日本にいる中国人が、その当たり前に反するようなことをしていると、マナーが悪いなどと思っていました。でも違いました。日本では禁止されていることが、中国では当たり前なこととして行われていたり、またその逆もありました。いかに自分の世界の中だけで生きていたかに気づかされました。中国語を学び、中国語を話す人と関わるために、中国の、または中国語を話す地域の文化を学ぶことは大切だと思いました。

これらの学びをいつもサポートしてくれたのがアドバイザーの続さんです。続さんは北京外国語大学で日本語を勉強している大学院生です。自由行動以外の時間は基本的に一緒にいて、いつも質問に答えてくれたので、中国語について、文化について、見て体験して、不思議だったことなどを学びに変えてくれたとても大きな存在でした。

この語学研修は、ガイドさん、続さん、ツアー、大学など私たちの学びをサポートしてくれるものがたくさんありました。今年から始まったものだということで、欲をいえば一年生のときから継続して参加したかったですが、これからも是非おこない、多くの人に参加して欲しいと思います。実際に体験することで学べることはただ聞いただけでは知り得ないことばかりです。楽しみながら学ぶ、語学研修によって私の夏休みがとても充実したものになりました。

万里の長城　ほぼ直角

中国に滞在してみて

文教育学部言語文化学科　1 年　升本 恵理菜

私は、今回 9 月 13 日から 26 日にかけて行われた、中国語語学研修に参加した。自身にとって初めての海外であり不安も大きかったが、とても充実した日々を過ごせたと感じている。

2 週間、中国・北京で生活してみて、日本と違う文化・気候に目を見張った。一つは交通事情だ。北京は車の交通量が多く、道路の幅が広いためか路駐している車も多かった。渋滞が起こり車が立ち往生しているのも目にした。また、日本では歩行者の安全が優先だが、中国では車が優先だった。信号の設置はあまりなく、あっても日本ほど交通ルールを守ろうとする人は少ない。最初の数日は、車がビュンビュン飛び交う様子にはとても驚いたし、その中を横断するのには苦労した。現地の人が平然と、信号・横断歩道がなく車の通りが多い道を渡っていたのには驚かされた。一週間もすると慣れてきたがそれでも日本よりも危ないと感じることはしばしばあった。

気候面では、大陸の、乾燥した空気は、日本ではあまり感じることができないものだった。東京のこの時期の気候としてはじめじめとした湿気が多いものだが、中国の空気は乾燥しているため日光が当たるか当たらないかで温度の差が大きく、日向の部分と日陰の部分では気温の感じ方がまるで違った。また、日本でもたびたび話題になっている PM2.5 の汚染を実際に目にしたが、ひどい日は本当に真っ白で視界が悪かった。日本だったらすぐに問題になるほどの白さだったが、現地ではそれほど騒がれておらず驚いた。

他にも飲料水や露店の多さなど、日本には馴染みのない光景がたくさんあり、とても新鮮だった。そしてそれらを当たり前として生活している現地の人々を見て、改めて日本での「普通」がすべてではないのだと感じた。

語学については今回、日本語なしの中国語授業で不安もあったが、たくさんの中国語に触れることができた。そしてそれを、実際に食べ物を注文するときや道を聞くときなどに使うことができた。日本語が通じない状況は初めての体験だったので、向こうが言っていることを聞き取れなかったりピンインの間違え等でこちらが伝えたいことがうまく伝えられなかったりというのは、ひどくもどかしい思いをした。

今回の語学研修を通して、戸惑う部分もあったが、日本とは違う文化をたくさん体験し、多くの中国語を耳にしたり目にしたりすることができた。自分が知らなかった中国の一面を知れたと思う。自分の世界を広げる、貴重な経験になった。

北京で広がった私の世界

文教育学部言語文化学科　2 年　安田佳代

私は、今回の研修で初めて中国へ行きました。中国について、授業内で話を聞くことはあっても実際に行ったことはなく、近い存在でありながらもその実情をほとんど知らない状態でした。北京に着いて私がまず驚いたのは、そこに暮らす人々の活気です。街中で屋台がでていて、車の数や車線も日本とは桁違いで、信号のない道路を渡ったり、トイレットペーパーが流れなかったり、日本での「あたりまえ」が全く通用しないということを実感しました。今までは、日本に来ている中国人観光客が電車内で電話をしたり我先にと行動するさまを見て、なんてマナーが悪いのだろうと感じていましたが、中国ではそれがごくあたりまえのことで、彼らはただ自分のなかの常識に従って行動していただけなのだと気づきました。それと同時に、海外における日本人も相当おかしなものなのではないかと思うようになりました。私の行動を振り返ってみると、潔癖なほどに衛生に気を配り、常にマスクを身に付け、青信号になるまで待ち続ける、中国人からしたら相当おかしな人であったことでしょう。私は今まで中国を自分のなかの物差しでしかはかっていなくて、とても狭い世界のなかで生きていたことを改めて感じた二週間でした。

また、語学においても収穫がありました。研修に行く前は正直、たった二週間で語学力が上がるとは思っていませんでしたが、教室の一歩外に出たらそこには、実践の場が広がっていました。バスや電車の案内や車内アナウンス、飲食店での食事の注文、観光地でのチケット購入、銀行での日本円から元への換金、思い出したらきりがないほど、この二週間は中国語であふれていました。日本で暮らしていたら、これほど多くの中国語を使わざるを得ない状況に遭遇することはなかったことでしょう。授業で習った表現を実践でき、そしてそれが通じたときの喜びはとても大きいものです。それと同時に、自分の言いたいことを伝えられないもどかしさも感じ、日

頃の勉強不足を痛感しました。日本に帰ってからも、今回の研修で得たことを無駄にしないように、より意欲的に学習しようと思いました。

この二週間で私が得たものは、目には見えないものですが、私自身を大きく成長させてくれました。これを機に、学生生活をより豊かなものにしていきたいです。

教室にて

从教室到世界，
茶大生走遍天下！

佳能信息技术にて

長城にて
“头上长城！”

＊＊アドバイザーから＊＊

最美好的回忆

——2015 年日本御茶水女子大学短期研修团感想文

北京外国语大学 日语系 续昕宇

几个月前接到带团通知，心里几分期许，又有几分担心。期许的是终于能见到传说中只有女学生的日本著名御茶水女子大学的学生们，担心的是自己有没有能力完成好这次领队任务，让远道而来的同学们安心、愉快地享受这为期两周的游学之旅。然而，事实证明，我的担心是多余的。短短的两周时间，不仅让我对日本的大学生有了更进一步的了解，也跨越了“年龄代沟”，同她们成为了亲密的朋友。下面将分享一下我带队期间的几点感想。

首先，由于年龄、文化等原因，我非常担心能否与同学们取得很好的沟通，但是学生们的开朗和热情很快就打消了我的担心，她们在努力适应每天的学习和生活的同时，也在积极询问各种问题，我也尽最大努力答复她们，还同大家谈到了共同的偶像、动漫等，这种良性的沟通和互动不仅拉近了我们之间的距离，也增进了相互的了解和友谊。其次，我深深惊叹于同学们的时间观念和自理能力。由于每天早上都要坐校车去学校上课，而酒店门前的停车时间又是极其有限的，司机师傅也反复叮嘱要守时，时间一到就准时发车，因此刚开始我很担心有些同学会因赶不上集合时间而出现不得不自己单独去学校的情况。但令人欣慰的是，整整 14 天竟没有一人迟到，并且在外出参观活动中也没有出现因不遵守集合时间而影响大家行程的情况，实在难能可贵。此外，本次研修团成员虽然大多数是大一新生，但大家的自理能力超乎我的预料，并没有出现因身体原因而缺席活动的团员，这让我十分钦佩。再次，我也深深被学生们的积极性所感染。大家不仅在课堂上积极同老师互动，营造了一种轻松愉快的课堂氛围，而且在课外活动（如参观故宫、观赏杂技和京剧、与日语系本科生的交流会）中也表现出了极大的热情和饱满的精力，同学们之间都能体贴互助，使研修活动得以顺利进行。最后，我想说的还是感谢。虽然只有短短两周，但各位同学对待学习的认真态度和相互之间的友谊不仅感染了我，也让我看到了大家的蓬勃朝气和多才多艺，作为中方领队，我也从各位同学身上学习到了很多宝贵的品质，而这也将成为我继续前行的动力。

本次带队经历于我而言十分难得，相信这次中国的游学之旅对各位同学来说也是一次宝贵的经历。相信通过这次研修，同学们的汉语水平不仅有了显著提高，在待人接物等方面也一定有所收获，希望各位同学能把学到的知识和技能运用到今后的学习和生活中去，不断进步、不断成长。

最后我想说，这次研修活动进行之顺利是我远远没有想到的，这不仅要得益于日方带队老师的协助，也得益于学生们的积极配合，因此于我个人而言，这次带队经历也为我的研究生生活画上了最绚丽的一笔，感谢四位认真负责的日方带队老师，感谢各位可爱活泼的同学们，祝大家身体健康、开心每一天！欢迎你们再来中国！期待下次相聚！

于北京外国语大学图书馆

2015.10.26

北京外国語大学図書館 外壁

＊＊引率教員から＊＊

五日間の引率を終えて

外国語教育センター　曹　泰和

私はかつて北京に住んだことがあり、北京に対しては特別な思いがある。今回は久しぶりの北京で、以前はあまり経験したことのない渋滞に２回ほど遭遇し、これがいわゆる“首堵”のことだと実感した。一方、地下鉄やバスの本数は以前より増え、かなり便利になった。中国の変化について話すとき、皆さんはよくハードの面では良くなったが、ソフトの面ではまだ良くなっていないと言う。しかし今回私は、北京が変わったと思ったのはむしろサービスの向上というソフト面であった。私たちが泊まったホテルは普通のビジネスホテルであったが、何かあると従業員の方は迅速に対応してくれ、フロントも親切であった。またバスの車掌の態度もよかった。「目的地まで何駅ありますか」と車掌に尋ねたらバスを降りる出前で“下站就是为公桥”と親切に教えてくれた。それからタクシーの運転手からも変化を感じた。今回、北京で３回ほどタクシーに乗ったが、どの運転手も感じがよく、乗っている間ずっと話をした。印象に残ったのは「われわれは首都北京の顔だよ」と得意げに言った運転手。私は「あなたたちは中国人を代表している」と言い添えたらその運転手は苦笑いをした。これから「私は北京の顔、中国の顔」というような自覚を持つサービス業の人が増えたら北京は今後ますますよくなっていくであろう。

今回の語学研修は、多くの学生にとって初めての経験であった。初めて、バスに乗るための“一卡通”を買う、初めての“换钱”、初めて中国語で“服务员”を呼ぶ、そして日本では絶対に体験できないようなハラハラドキドキの横断道路をわたる、さまざまな初体験をしていくうちに、日増しに逞しくなっていく学生の姿を見て、本当に嬉しかった。

現地アドバイザーの続昕宇さんにはたくさんお世話になり心から感謝している。そして宮尾正樹先生がいらっしゃったおかげで本当に心強かった。

中国語短期研修を終えて

外国語教育センター　馮　曰珍

今回私は後半の６日目から皆さんと合流した。

その日は全員で夕食を食べに行く予定で、時間になるとの皆三々五々集まってきた。はじめの数日は現地の先生とのコミュニケーションから、毎日の食事のことまで、日々の生活中で色々戸惑うこともあったと思うが、たった数日間でもう数ヶ月も留学している学生のような顔つきになっていた。

北京外国語大学での授業はすべて中国語で行われる。特に一年生の皆さんは始め先生の言葉がまったく理解できずきっと大変だったと思う。私が行った後半では皆さん授業にもなれて、先生とも身振り手振りを交えながら上手にコミュニケーションがとれるようになっていた。授業は教科書を使うほか、映画を見たり、中国語の歌を習ったりと様々な工夫がされていた。歌詞の内容までよくわからなくても、発音をメロディーにのせて歌うだけでも十分楽しそうだった。

授業以外の時間は全て実地研修になる。皆さんはコーディネーターの続さんのアドバイスやインターネット、ガイドブック等を上手に利用して北京の街に出かけていた。この午後の時間は教室で学んだ言葉をすぐに使えるまたとないチャンスだ。入場券を買うのも、料理を注文するのも、買い物をするのも何もかも中国語でしなければならない。私たち教員も日ごろ学生のみなさんと中国語を使いたいと思っているが、根気が続かずつい日本語で言い換えてしまう。授業で習った言葉を友達同士で使ってみましょうと言ってもなかなか使ってもらえない。日本にいながら中国語の環境を作るのは本当に難しい。

食事の席で皆さんが楽しそうに語る「苦労話」や感動、発見を聞きながら、言葉が使われている現場に来ることがどんなに大切さを感じた。そして次はもっと多くの皆さんと来たいと思った。

おわりに

中国語圏言語文化コース　宮尾　正樹

大学教師をしてもう 30 年になるが、学生の目の色が見る見る変わっていく姿にお目にかかるのはめったにあることではない。今回の語学研修を引率して、まさにそういう経験をした。北京空港に着いて、空港ビルから外に出た瞬間から、学生たちの目がきらきら輝き始める。到着翌日から、午前中は中国語の授業、午後はいくつかの団体活動を除けば学生たちの自主的な活動という日々が始まり、話し方も歩き方もどんどん自信が満ちてくる。参加学生たちのそんな姿を見ていると、準備期間があまりない中で実施した、大学主催としては初めての中国語学研修だが、やってよかったと心から思うのと同時に、もっと早くから行うべきであったと反省もした。

今回の語学研修が大成功に終わったのは多くの方々のおかげである。まず、グローバル教育センターの先生方は北京外国語大学とコンタクトをとってくださり、奨学金の申請手続き等の情報を提供してくださった。国際本部員でもある中国語圏言語文化コースの伊藤美重子先生は学生のニーズを的確に把握し、2 週間という語学研修としては短い期間のプログラムを提案してくださった。旅行を請け負った毎日エデュケーションは北京外国語大学と太いパイプを持っており、日本語科の大学院生をアドバイザーとして、研修期間中ずっと学生たちにつけてくださった他、学生たちに対する説明会から、羽田空港への見送り、出迎えと丁寧に対応してくださった。アドバイザーの続昕宇さんは卓越した日本語力と優しさで学生たちをよくサポートしてくださった。大学やホテルとの交渉は若い大学院生にはハードルが高い仕事だったに違いないが、常に微笑を絶やさずこなしてくれた。この経験が彼女自身の今後の糧となってくれればと願っている。誰よりも、ずっと学生の引率をしてくださった外国語教育センター所属の馮曰珍先生、曹泰和先生の献身的な働きなしには、研修は実現すらしなかったであろう。学生へのリクルート、さまざまな情報提供から始まり、研修期間中も学生たちに対して親身に面倒を見てくださった。

そして、成功の一番の要因は学生たち自身であったかもしれない。最初の数日はおとなしく時間を守るが、慣れてきたら朝食に遅れ、授業に遅れ、北京のどこかで迷子になり、という学生がきっと出てくるに違いないと予想して（期待して？）いたが、朝 6 時半の朝食に遅れる者も、7 時半出発のバスに乗り遅れる者も、行方不明になる者も一人としていなかった。「規律」ではなく「自律」、常々学生たちにこうあって欲しいという言葉を参加学生たちの行動から思い起こした。自律的に行動できるからこそ、言葉がほとんど通じない見知らぬ環境の中でも自分を失わずに、同時に自由に振る舞える。諸姉はそんな自分に自信を持ってよい。

私はと言えば、今年の 9 月になって北京で突如流行りだしたという「頭上長草」を頭につけて喜んでいるばかりで、ほとんど何もせずに、一週間の休暇をもらったようなものだが、私の出番がなかったのが何よりであったとも言えよう。唯一私が取り持ったのは、キャノンの北京法人である「佳能信息技術」への訪問をセッティングしたことである。出発前には参加希望者が少なかったが、北京に着いて、何でも見てやろうという気持ちに火がついたのか、17 人中 13 人がお邪魔して、社長の井田さんと社員の日向さんから 2 時間にわたって貴重な話を聞くことができた。当事者が語る、北京で暮らし、働くことの苦労や喜びに学生たちは深く印象づけられたようであった。今後もキャリアについて考える契機を与える取り組みを研修に盛り込んでいきたい。

今回の研修実施にあたって経費的な支援をしてくださったグローバルリーダーシップ研究所に感謝する。まだ整理が終わっていないが、10 月に中国語履修者対象に行ったアンケート調査によると、短期長期を問わず、奨学金等の支援があるか否かが、研修参加を決める際の重要な検討要素になっていることが窺われる。今後も大学として学生の海外体験に対する支援を継続、充実していただきたい。

本冊子は研修直後に提出した学生のレポートを中心にして引率教員が編集した。冊子中の写真等は全て参加学生と引率教員が撮ったものである。実際の編集作業はほとんど馮曰珍先生が手がけてくださった。重ねて感謝申し上げたい。

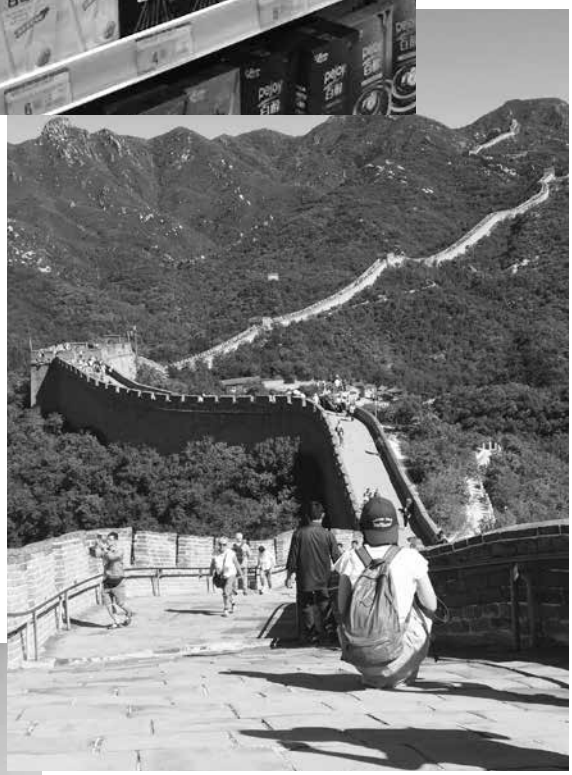
故宫

谢谢，张老师!!

上有天坛，头上有草

百奇！百力滋！

中国でも焼き芋



「蜿蜒」というのはこういうことか

円明園です

いろいろ撮りました

2015 年中国語短期語学研修報告書

中国語語学研修準備・実施委員会　編
（伊藤美重子、宮尾正樹、曹泰和、馮曰珍）

2015 年 12 月　発行